

## ぶらりわが街宮沢界限

### ⑳ 熊野神社と獅子舞(ししまい)・大公孫樹(おおいちょう)

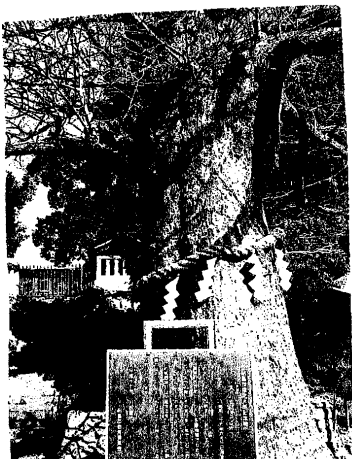
「熊野神社(くまのじんじゃ)」(中神町1-12-7)

[祭神] 伊弉冉尊(いざなみのみこと)・速玉之男命(はやたまのおのみこと)・事解男命(ことわけのおのみこと)の三神 [例祭日] 本来は9月19日、現在は8月第3日曜日  
[由緒] 旧中神村の鎮守。創建年代は明らかでないが、古く南北朝時代の延文5年(1360)紀伊国(現在の和歌山県)熊野本宮の分霊を勧請(かんじょう)、奉祀(ほうし)したと伝えられ、昔は熊野大権現「または「熊野大神」と称していたが、明治29年(1896)4月21日に現社号に改称した。

[社殿その他] 本殿は住吉造、寄棟、妻入(つまいり)造の覆屋におおわれている。嘉永5年(1852)に中神村の豪商九代中野久次郎が、寄進して再興したものである。拝殿は入母屋(いりもや)造、幣殿(へいでん)は両下造。手水舎、玉垣、他に「熊野宮」の神額を掲げる銅造の台輪(だいわ)鳥居一基、狛犬(こまいる)、燈籠(とうろう)がある。境内末社には、稲荷神社、八坂神社、床浦神社、大杉神社、御嶽(みたけ)神社が鎮座している。尚、熊野神社と呼ばれる神社は全国で3500社あると言われています。

○ 「中神の獅子舞」—東京都指定無形民俗文化財 昭和62(1987)2月24日指定  
熊野神社に伝承する獅子舞で、悪霊退散(あくりょうたいさん)・五穀豊穰(ごくほうじょう)を祈願して、神輿渡御(みこしときよ)に代わって獅子が町内を巡行し、同社祭礼日に奉納される。史料的には天保14年(1843)9月の「獅子舞祭礼施行願」(中野和夫氏所蔵文書)が見えるから、それ以前からの伝統であることは間違いないです。大正6年(1917)に獅子頭を修理し、その後、今時大戦から10年程中止し、昭和32年(1957)に再開、現在に至っている。構成は、三頭の獅子(大・中・雌頭)を中心に、隣方(はやしかた)(笛・小太鼓)・ささら・導き・棒遣(ぼうつか)い・太刀遣い・唄い手などが付く。内容としては、ふちがかり・花がかり・笹の眠り・女獅子づくし、剣など12通りからなっている。12通りの演目をすべてでき「狂う」(獅子が踊る)のは、都内で中神が唯一で、獅子舞として貴重です。

○ 「大公孫樹」—昭島市指定天然記念物 昭和36年(1961)6月1日指定  
熊野神社境内正面の石段脇に聳(そび)える大公孫樹は、幹周り約6.5m、高さ約45.5m、推定樹齢400年といわれ、多摩地域では稀(まれ)に見る大木で、熊野神社の神木として古くからあがめられています。イチヨウは雌雄(しゅう)異株で、この樹は雌株です。毎年秋には成熟する実の銀杏(ぎんなん)は、約三石(540リットル)に及びます。イチヨウは、公孫樹のほか、銀杏・鴨脚樹とも書かれ、公孫樹は公の時代に植えたものが孫の時代に実をつけるところから出たといわれています。



記

防犯宮沢支部会計 西山 禎一

